

山行NO NO. 1801
日時 2018.08.26(日)～30(木)
山域 小秀山(1982m)、大川入山(1908m)、上松・風越山(1699m)、御座山(2112m)
1日目=08月27日(月・晴れ)・・・小秀山登山
コース 乙女溪谷キャンプ場発・二ノ沢4:00ー夫婦滝5:08ーカモシカ渡り6:15ー三ノ沢分岐6:32ー兜岩ー第三高原7:41ー小秀山7:56～8:20ー二ノ沢分岐9:41ーキャンプ場11:41ー大川入山に移動
標高差 上り キャンプ場約880m～小秀山1982m=約1102m
下り //

「♪お秀ちゃんを侮るなかれ。舐めたらあかん！舐めたらあかんでえ！♪」

登山道入口に、二ノ谷ルートは「注意して歩行すれば通行可能です」との掲示板があった。

乙女溪谷キャンプ場・二ノ谷登山口をAM4:00出発。まだ暗い。

ヘッドランプは行く手を照らす、が、「めっちゃ綺麗！」と言われる溪谷沿いは暗闇のなか。

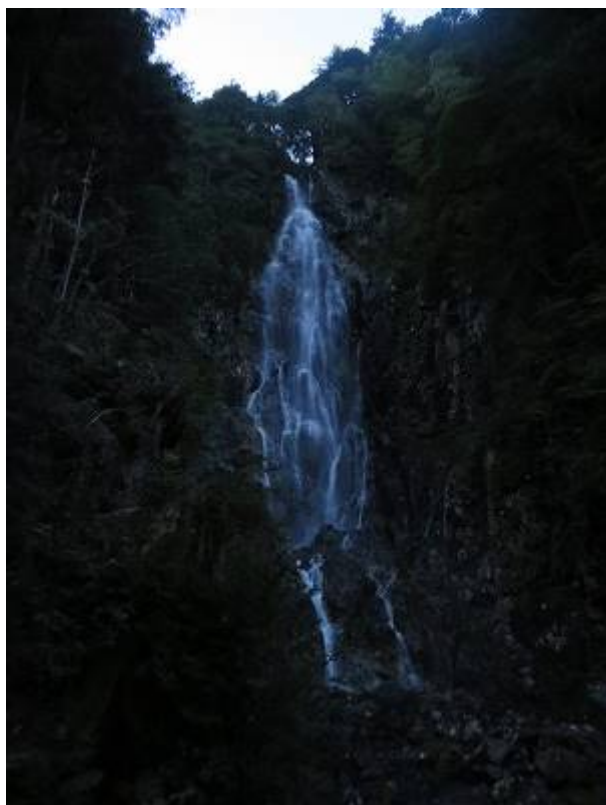
右手に沢の音だけを聞きながら黙々と木の階段を登る。

「夫婦滝」でようやく薄暗い中でも眺められる明るさにホッとする。

豪快に流れる滝は、女性が髪を後ろ手に一本に束ねて垂らした様相で、名前の由来は何処から？みたいな感じ。でも80mを一気に流れ落ちる滝は豪快で、白糸の滝や音止の滝を見慣れてあまり感動がわかない私でも「素晴らしい！」と声が出た。



乙女キャンプ場



夫婦滝・80m

滝を過ぎると、道は荒れた急登にかわる。滝の上を回り込むが下は断崖絶壁。

ちょっと足を踏み外すと地獄の釜の蓋が「いらっしゃい」と待ち受けているようで慎重にならざるを得ない。

子滝、孫滝と家族一体のような滝を過ぎると、迫力のある岩場になり、身体を持ち上げるのに「ヨッコラショ」つい掛け声が出てくるようになった。

第一展望台からも相変わらずの急登が続く。下りに使う三の谷からの合流点はまだかなと探しつつ、「かもしか渡り」を通過。この上の樹林帯の中で三の谷合流点の下山口を確認。

其の先、荒れた岩ころの急登に汗が噴出し目が沁みる。木の根を掴みようやく「兜岩」に着いた。岩の直登、右側トラバース道の標識。



小秀山（頂上左に小屋）

勿論、直登だ。身体を持ち上げ登り込むと、岩の上からの展望が開ける。そよ吹く風が涼しい！
楽しむことなく先へ進む。此処からは樹林帯の緩やかなアップダウンが続き、第一高原、第二高原、第三高原と長いダラダラ歩きでやっと山頂着だった。
高原には、白玉、トリカブト、ヒヨドリソウ等が、旬を過ぎた感じで申し訳なさそうに咲いていた。が、キノコはない！

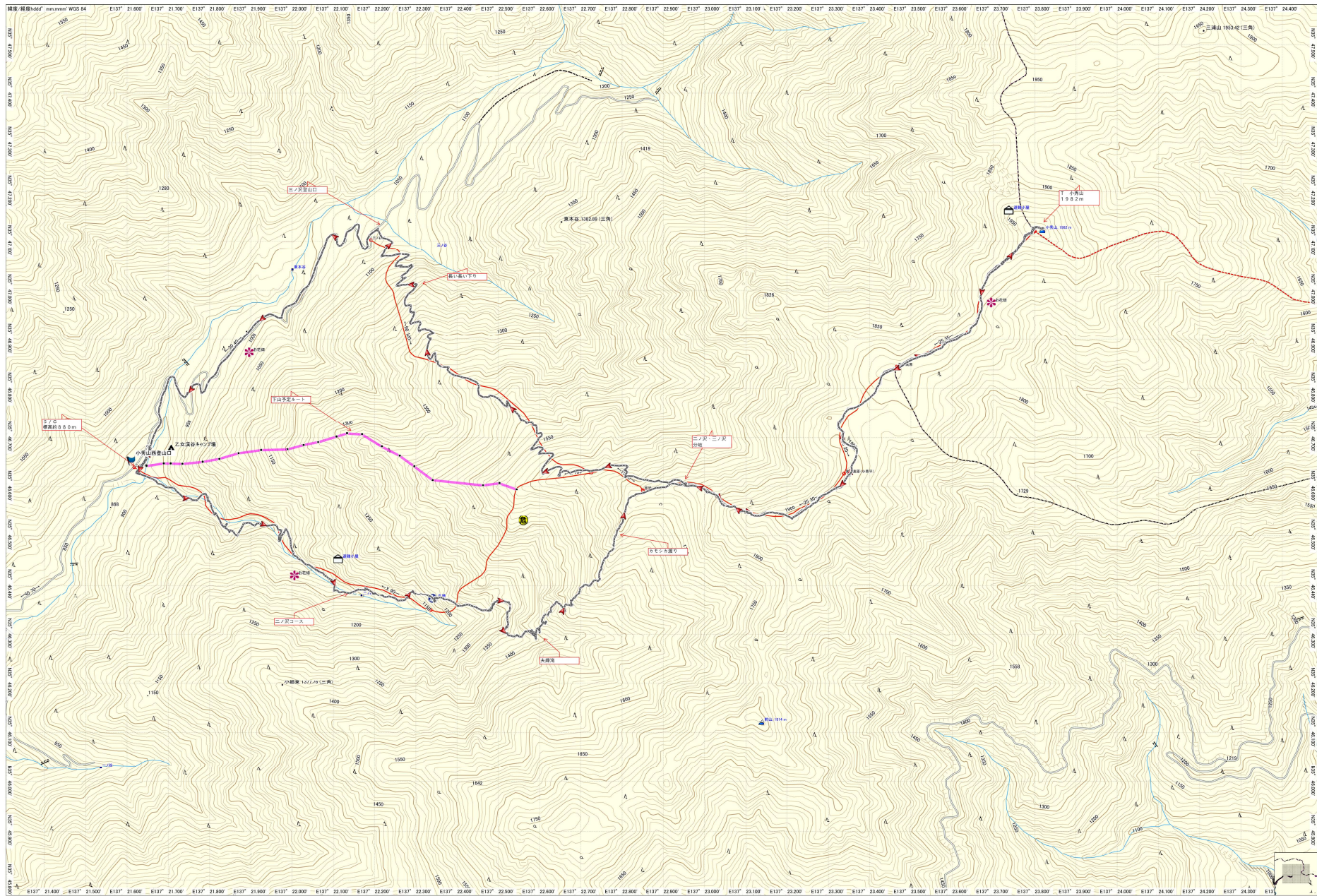


御岳山

山頂は、御岳山の展望が素晴らしく、CLが山を確認していた。
少し下がると、まだ新しい立派な避難小屋がある。廻りは樹林帯だが、刈り込まれ眺望もある。
小屋は「秀峰舎」の看板があった。高床式で、入って右にバイオのトイレ、真ん中を隔てて、右手は広い床張りの部屋でとても清潔な小屋だった。
三の谷の分岐まで往路を下る。其処からは歩き易い樹林帯の道で危険は全くないが、林道までとにかくズルズルと長い。腐るほど歩いてやっと林道に出ると陽ざしはカンカン照り。湿気はないので蒸し暑さはないが、そのかわり、頭にキーンとくる強烈な暑さだ。日傘を出してやっと歩ける。管理棟に着く頃にはヘトヘト？やっぱり「お秀ちゃんを侮るな！舐めたらアカン！あかんでえ」の山でした。
因みに私の名前の一文字がついているんだよねえ・・・(笑)

その他の記述 (G)

1. 前日、上って下りて来た富士宮の御夫婦と交流。遠路、渋い山に来ると感心。(写真)
2. この山の展望は周りに高い山がなく、兎に角、素晴らしい。
3. 兜岩で上って来た若い衆と交流。最近山を始めたという。若い衆はイイ。ほか埼玉のオジと会った。
4. 乙女キャンプ場は、親切・丁寧・温かくサイコー。駐車料金500-は安い。
5. 短い王滝コースもあるが、乙女キャンプ場からがお勧めです。



2日目＝08月28日（火・晴れ）・・・大川入山登山

文・KH 写真・GT

コース 治部坂峠発5：00－横岳6：04－あと2kmの道標6：54－大川入山7：49～8：04－横岳9：23－治部坂峠11：44－風越山に移動
標高差 治部坂峠約1170m～大川入山1908m＝約738m（ただし長い下り

頂上からの展望は四国の笹山？

本来なら「青木村の子檀嶺岳」に登る予定だったが、車の移動が長すぎるから近場のいい山にしようという事で「大川入山」に急遽変更。

そんなわけで資料も何もなく、「信州のふるさと100山」の冊子を頼りに治部坂峠に向かう。治部坂トンネルの手前、「そばや」の脇に立派な道標があり、その並びにある公共の広場に駐車。



登山口の蕎麦屋さん

支度を整え舗装された登山道を進む。5分程でT路にぶつかり右手の荒れた道路を少し登ると、幅のある快適な山道となる。

橋が架かる沢を渡り尾根に向かって上り詰めると、根がビッシリ張った尾根上になる。

薄暗い林の中に、剥きだしに絡み合った太い根っこは、大蛇がのた打ち回っているようで気味悪くはないが自然の産物に摩訶不思議な気分になる。

暫し登ると崩壊地が2ヶ所あり巻き道を辿る。なかなかきつい登りだ。いや、昨日の疲れもあって「えらくキツイ」登りに思えた。「きのこ」を探しながら・・・という話だったが登るに必死でそれどころではない。傾斜が緩み、カラマツ林の快適な道になると横岳に到着。樹木に覆われ展望のないちょっとしたピークだ。ここで小休止。



横岳

横岳からは緩いアップダウンを繰り返しながら、左側が背丈ほどに開けた気持ちの良い尾根道を進む。木の間越しに端正な形をした大川入山本峰が見え隠れ。山頂まで2kmの道標を通過。やや下り勾配のアップダウンで、残り1km地点の最低鞍部に着く。平地に比べて、登山道の2kmは長い。な・が〜い！花もなければキノコもない。展望もない。ただひたすら汗を流すだけの、ないない尽くしの「な・が〜い距離」を黙々と登る山なんだ・・・と。この時までは・・・。



左上が頂上



大川入山頂上

自身を奮い起こす為に心の中で「オン アボギヤ ベーロシャノウ」と真言宗の念仏を心の中で唱えて歩く。鞍部から樹木が少なくなり、笹の生い茂ったジグザグ登りに変わる。と、同時に眼下に展望が広がり始めた。

うう～ん。素晴らしい！清々しい光景だ！この山のハイライト？こんもりとした山の連なりが、笹の緑一色に覆われてつるんとした団子の山みたいだ。

（注：この笹が曲者。遠くから眺めると芝生に見えて、藪もない歩き易い山のように見えるが、ところがドッコイ。一度踏み込んでしまうと笹はこの上なく歩きづらくて悪戦苦闘は間違いない。過去に皆の輦蹙をかかった苦い経験がある）

今までの疲れも吹っ飛び、笹道を一気に登ると、大川入山の頂上。

展望良し、椅子あり、山頂からは御嶽、中央・南アルプスの大パノラマを堪能し、のんびりと休憩を楽しんだあと往路を下山した。



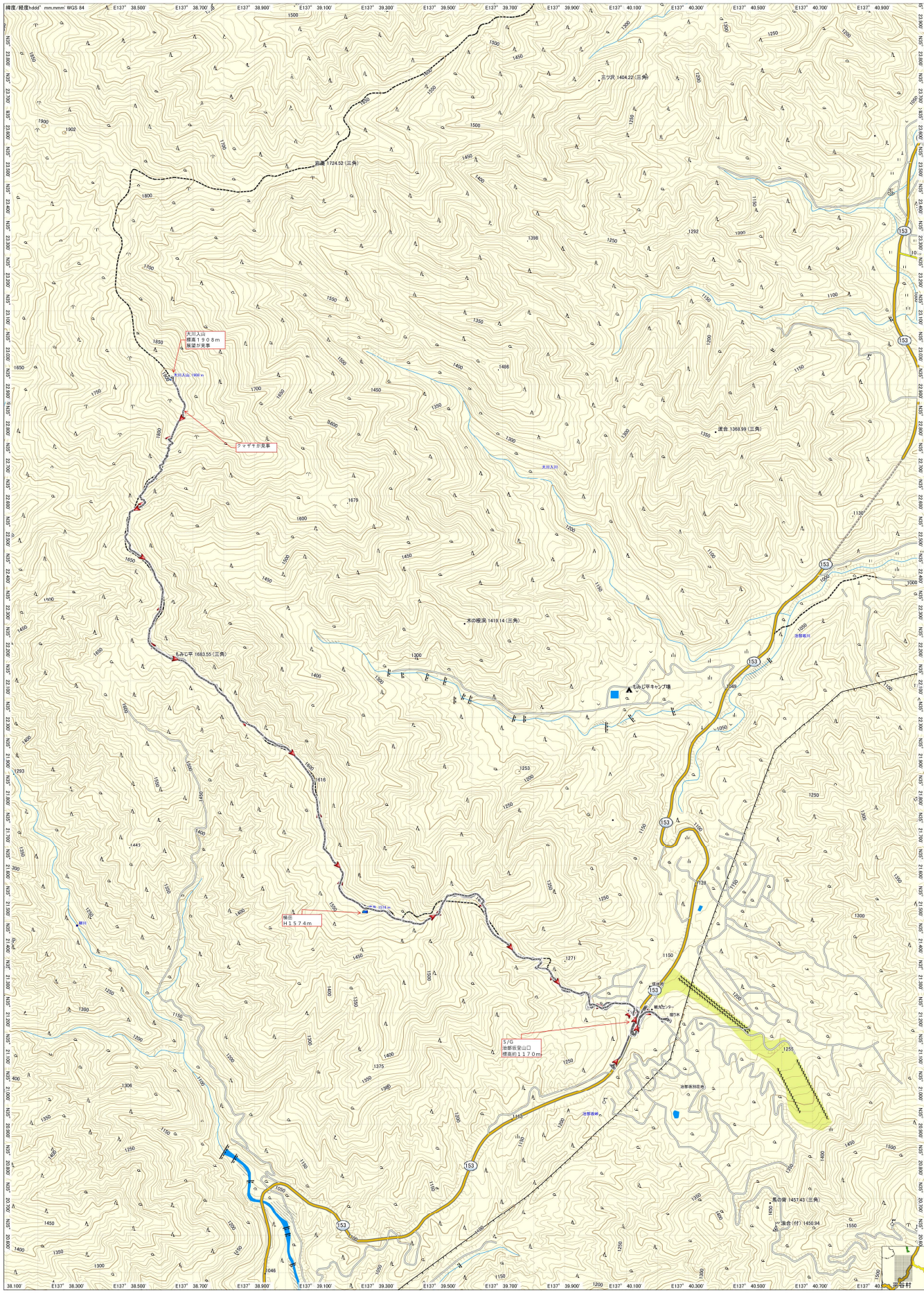
下山



十割蕎麦屋の天ぷらとソバ

その他の記述（G）

1. 蕎麦屋の女性主人は親切な方で前日、食事もしないのに売り物のゼリーをくれた。下山後、再び寄ったら温泉の無料券・割引券をくれた。当然、昼食は天ぷらと蕎麦をいただいた。
2. 蕎麦屋横の広場は登山者用で自由に使える。トイレは向かいの山の手の中腹に水洗がある。
3. 頂上のカラマツなどは、御殿庭の樹木同様、枝が片方向のみ伸びていた。風が強いのだろう。
4. 横岳までモーレツな上り。以後、ダラダラ。



コース 登山口発5:58-Aコース-Bコース分岐7:08-風越山7:59-展望台7:42~
8:00-Bコース8:30-登山口8:52-御座山に移動
標高差 登山口約1100m~風越山(展望台)1705m=約605m
下り //

花は良かったが・・・

大川入山を下山し、道の駅で温泉し、次の山に向かった。
風越山がイイと思った。風越山は、この辺りに二つある。。中津川と上松。ガイドブックは上松だった。
何となく、ガイドブックに引かれ、上松に来てしまった。



登山口

登山口には簡易トイレがあった。有難い。
脇に登山口がある。最初から急登。先に分岐。Aコース・Bコースがあった。
地図で分かるが、Aは一本上り・Bは長いがなだらか。
物凄い上り。汗が吹き出る。やがて防火帯に出た。ここは予想外に花が良かった。
フシグロセンノウ(節黒仙翁)・トリカブト(烏兜)・マツムシソウ(松虫草)・タムラソウ(田村草)・サ
ラシナショウマ(晒菜升麻)・萩・撫子・オミナエシ(女郎花)、などなど。



フシグロセンノウ



オミナエシ (?)



タムラソウ



風越山標識

防火帯を抜けると、原生林が続き、風越山の標識があった。山頂というより、コブだった。元々、この山はピークというより、中ア・三の沢岳に至る尾根の小ピークに過ぎない。なのに立派な山名を拝しているのが不思議。強いて言えば、先にある展望台から木曾駒ヶ岳が素晴らしいからだろうか。しかし、今日は上部がガスで全くダメだった。下山は、途中からBコースを下る。Aコースより歩き易い。ただ、下部のトラバースは長い。分岐に再び戻り終了。登山口に一宮の軽が一台あった。ま、特に特徴がある山ではなかったが、これも勉強。次の御座山に向かった。

コース 栗生登山口発5:29-不動の滝-岩場-祠7:00-御座小屋7:15-御座山7:21
~30-不動の滝8:14-登山口8:48-帰静
標高差 登山口約1400m~御座山2112m=約712m
下り //

久しぶりの御座山だった

御座山は、1982年来だった。記憶では、北面から縦走したと思っていたが、調べたら栗生から往復だった。栗生の最終バス停に立派なトイレがあった。役場に聞いたら登山者用という。

<http://www.minamiaiki.com/ogurasanso.html>

この上に以前なかった「おぐら荘」という宿があった。某会社の保養所だが、空いていれば一般のOKとのこと。宿泊費は8640-。 [おぐら荘HP](#)



登山口

林道を走り登山口から出発。すでに標高は1400mある。
1000m位が理想だが・・・。ジグザクの快適な道をグングン上る。非常に歩き易い。



周りは唐松・樅の林が続く。林床はカラカラだが、ひと雨降れば、キノコ山になる。
少しだが、ジゴボウ（鼻猪口）、ショウゲンジ（正源寺）をゲットした。
上部に岩場があった。鎖があった。
小ピークに祠があった。この辺りで梢に頂上が見え隠れした。



小ピークの祠



避難小屋



下山



御座山



BMWのオジサン

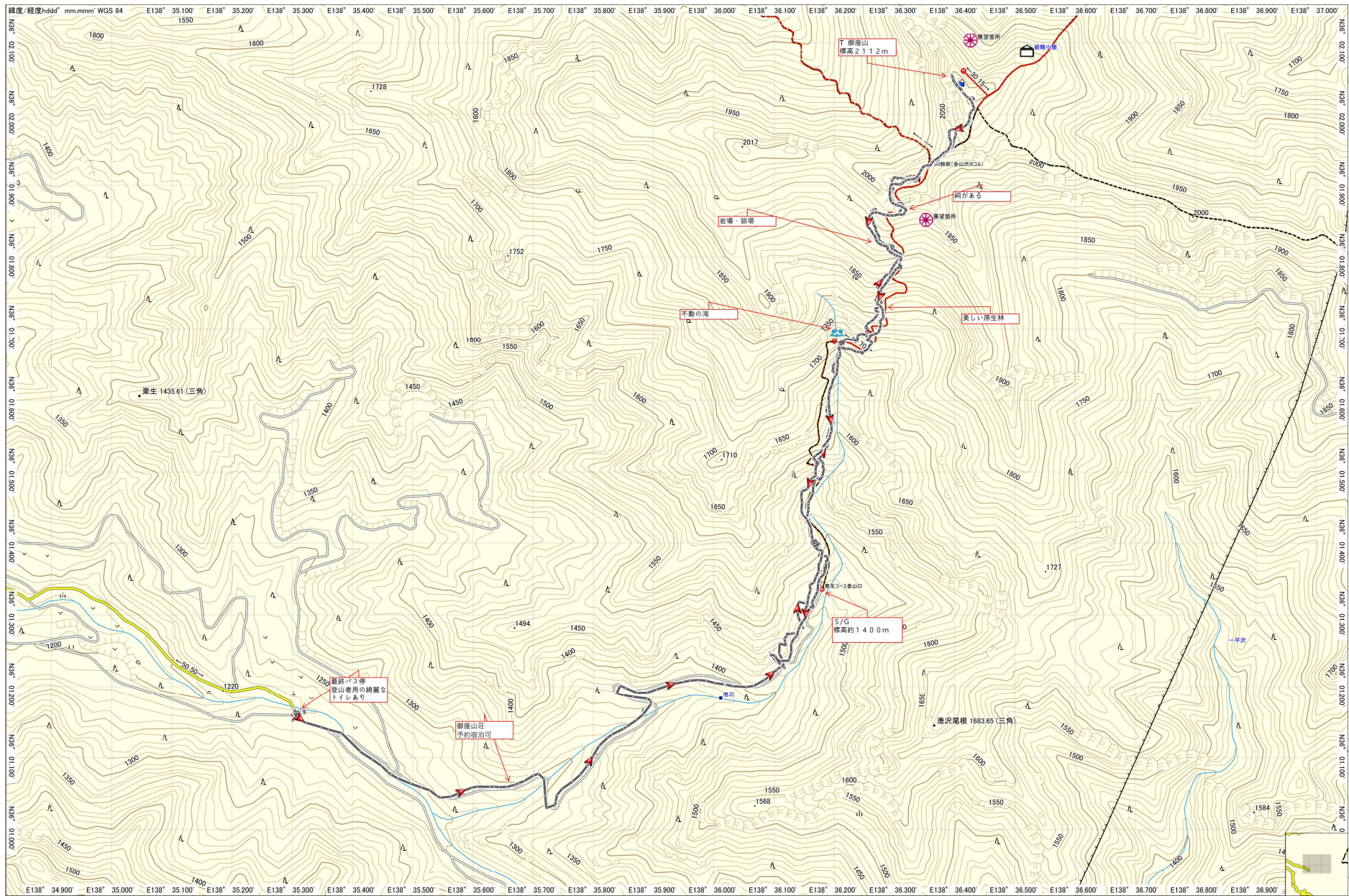
一旦下り上り返せば避難小屋があり、先が頂上。まだ、7時半前だった。頂上は西風が冷たい。すぐ下山。帰りは速い。

登山口で長野の二人に会った。男性の靴がズックなので大変かも。

帰りは馬越峠を越える。途中でBMW1100CCに乗ったオジサンに会う。バイクは300万。日帰りで来たという。

大深山に下れば辺りは、高原野菜の一大産地。ただ、大型農機がレタスにガンガン消毒を目撃したら今後、食べる気が失せた。これは、ここに限ったことではないが・・・。

(了)



Japan Topo 10M Plus V3
 2018年10月現在
 著作権 © 2018 Garmin

マイコレクション

